

全国薬局 開業ランキング レポート ver1

＜調査方法＞

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の薬局に関する調査結果を発表いたします。
※保険適用の薬局が対象となります。

全国薬局 開業ランキング 2025年1月～6月

薬局開業全国TOP5/2025年1月～6月	…P4
全国薬局開業ランキング	…P5
薬局開業1,254件 都市と地方で分かれる新たな開業モデル	…P6
DXが後押しする薬局機能の再定義	…P7

全国薬局 年間開業数比較 過去5年間

全国薬局 年間開業数比較 2021年～2025年	…P9
開業推移から見える変化 — 減少の背景と新たな潮流	…P10-11

2025年の着地見込みと展望

2025年の着地見込みと展望	…P13-14
薬局は「地域の健康ハブ」へ	…P15

全国薬局 開業ランキングレポート ver1 まとめ

薬局の進化と未来 — 地域と人をつなぐ新たなステージへ	…P17
データが映す、未来への道標	…P18

全国薬局 開業ランキング 2025年1月～6月



薬局開業全国TOP5/2025年1月～6月



全国の薬局業界では、医薬分業の定着や在宅医療・地域包括ケアの拡充を背景に、医療機関との連携を強化した“かかりつけ薬局”の重要性が高まっています。

また、人口減少が進む地方では、在宅支援や医療モール併設など、地域医療を支える新たな形態の開業が進行しています。

医療・調剤ビジネスの動向を把握したい事業者さまなど、実務に役立つヒントとなれば幸いです。

2025年1月～6月の全国の薬局開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(163件)

再開発エリアや医療モール内での開設が目立ち、医療機関との連携を重視した調剤薬局が増加。在宅医療対応や専門医療連携型の薬局が拡大している地域も。



2位 大阪府(118件)

クリニック併設型・在宅訪問対応型の薬局が増加傾向。再開発が進む梅田・本町エリアに加え、堺市や東大阪市など高齢者比率の高い地域でも新規開業が続いています。



3位 愛知県(94件)

名古屋市を中心に、医療モール併設型の調剤薬局が増加。郊外の豊田市・日進市・岡崎市などでも生活圈密着型薬局の新設が見られ、都市と郊外の双方で需要が拡大しています。



4位 神奈川県(92件)

横浜・川崎エリアでは駅近の処方箋薬局が多く、ファミリー層や通勤者の利用を意識した開業が中心。一方で、湘南・相模原地域では在宅医療連携型の薬局が増えています。



5位 埼玉県(74件)

住宅地や医療モール内での開業が目立ち、地域包括ケアに対応した薬局が拡大。特にさいたま市・川口市・越谷市などでは、医科・歯科との連携強化を目的とした開設が進んでいます。

全国薬局開業ランキング

2025年1月～6月の全国の薬局開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年1月～6月 全国開業件数 1,254件

薬局/2025年1月～6月					
	都道府県	件数			
	合計	1254	24	滋賀県	15
1	東京都	163	25	奈良県	15
2	大阪府	118	26	熊本県	15
3	愛知県	94	27	福島県	14
4	神奈川県	92	28	大分県	14
5	埼玉県	74	29	新潟県	13
6	福岡県	61	30	秋田県	12
7	兵庫県	53	31	沖縄県	12
8	千葉県	43	32	長崎県	10
9	宮城県	33	33	山梨県	9
10	北海道	30	34	山口県	9
11	岡山県	28	35	愛媛県	9
12	京都府	27	36	青森県	8
13	静岡県	26	37	山形県	8
14	茨城県	24	38	宮崎県	8
15	長野県	24	39	石川県	7
16	鹿児島県	22	40	徳島県	7
17	三重県	21	41	富山県	6
18	群馬県	19	42	高知県	6
19	岐阜県	18	43	佐賀県	6
20	広島県	17	44	福井県	5
21	香川県	17	45	島根県	5
22	岩手県	16	46	和歌山県	4
23	栃木県	16	47	鳥取県	1

2025年1～6月期の新規開業数を都道府県別に見ると、東京都・大阪府・愛知県・神奈川県・埼玉県が上位を占めました。

都市部では医療モール併設型の開業が多く、地方では在宅医療対応など地域密着型の動きが広がっています。

薬局開業1,254件 都市と地方で分かれる新たな開業モデル



2025年1月～6月に全国で開業した薬局は、1,254件に上る結果となりました。

都道府県別では、1位東京都(163件)、2位大阪府(118件)、3位愛知県(94件)、4位神奈川県(92件)、5位埼玉県(74件)と続き、上位5都府県で全体の約4割を占めています。

人口・医療機関の集積が高い都市部での開業が目立つ一方、地方・郊外でも地域密着型の薬局が増加傾向にあります。

■地域別の傾向と特徴

◎ 都市部(関東・関西)

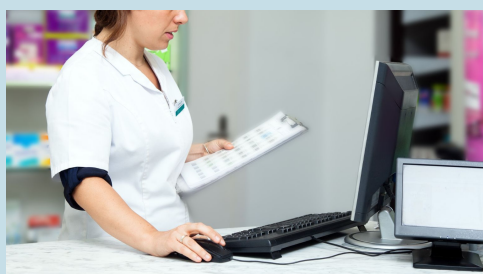
首都圏および関西圏では、医療モール内・駅近・再開発エリアをターゲットにした開業が増えています。例えば、東京都・大阪府では、クリニック併設型の調剤薬局や、在宅訪問対応を前提とした薬局が拡大しています。

都市部の薬局においては、通勤・通院動線に沿った立地や、薬剤師が服薬指導・在宅支援に専念できる体制への転換が進んでいます。

◎ 郊外・中部・地方エリア

愛知県など中部圏では、名古屋市内だけではなく、豊田・岡崎・日進など郊外住宅地における開業が目立ち、住宅地を中心とした「生活圏密着型薬局」の展開が進んでいます。

地方県(例:鹿児島県、長野県など)では、高齢化の進展や在宅医療ニーズの高まりを背景に、訪問薬剤管理・高齢者対応型薬局の開設も見られ、地域包括ケアの枠組みに薬局も積極的に参画する姿勢が強まっています。



こうした動きの背景には、電子処方箋の普及やDX化の進展があります。

オンライン服薬指導やデジタル薬歴の導入が広がり、薬剤師がより専門的な服薬管理や地域連携に注力できる環境が整いつつあります。

薬局は、単なる調剤拠点から「地域医療を支える情報・相談拠点」へと進化しています。

DXが後押しする薬局機能の再定義

新しい風：薬局業界の変化点

■ デジタル化・電子処方箋の普及

薬局業界では、紙処方箋からの脱却を図る「電子処方箋」運用が進行中です。既に薬局の導入率は80%超に達しており、今後医療機関側の対応が鍵となっています。

※出典：厚生労働省「電子処方箋の運用状況について」

この仕組みにより、薬剤師が重複投薬や併用禁忌などをリアルタイムで確認できる環境が整いつつあり、薬局が単なる“調剤受け皿”ではなく、**地域の薬物療法安全を支えるハブ**として位置づけられる変化が生まれています。

■ “かかりつけ+地域包括ケア”としての薬局機能

少子高齢化と在宅医療の拡大を背景に、地域医療連携・訪問薬剤管理・健康相談など、薬局の役割も多様化しています。薬局が医療機関・介護施設と連携しながら、地域包括ケアの一翼を担う「地域の健康ステーション」としての出店・開設が増えている点が注目されます。

■ 在宅医療を支える「訪問薬剤管理」の広がり

高齢化の進行により、自宅で療養する患者が増える中、薬剤師が患者の自宅や高齢者施設を訪問し、薬の管理・服薬指導を行う「訪問薬剤管理」が全国で広がっています。

この取り組みは、医師・看護師・ケアマネジャーなどと連携しながら、服薬の継続支援や副作用防止を目的に実施される在宅医療の一環です。

薬局にとっては単なる調剤業務にとどまらず、“**地域医療チームの一員**”として在宅医療に直接関わる重要な機能であり、特に地方や過疎地域では需要が高まっています。

近年では、ICTツールを活用してオンラインで服薬管理を行うケースも増えており、訪問薬剤管理 × デジタル化の融合が進んでいます。

薬局開業から見える今後の方向性

今後の薬局は「立地」だけではなく、「医療連携力・在宅支援力・デジタル対応力」が競争軸となる可能性が高いです。

加えて、電子処方箋を含む医療DX流れを背景に、薬局の業務モデルそのものが変化期を迎えています。薬剤師の役割も調剤中心から、健康相談・地域包括支援・データ活用型サービスへとシフトが予想されます。

全国薬局 年間開業数比較 過去5年間



全国薬局 年間開業数比較 2021年～2025年

次に、2021年からの5年間における薬局の開業推移を見ていきます。

コロナ禍を経て変化してきた医療体制や社会環境の影響を踏まえ、薬局開業の数とその質の変化を比較・分析します。

薬局 / 2021年～2025年開業数					
都道府県	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 1月-6月
合計	3290	3391	3247	2590	1254
北海道	101	112	142	101	30
青森県	30	27	20	19	8
岩手県	40	22	23	33	16
宮城県	67	92	58	51	33
秋田県	26	17	21	22	12
山形県	40	38	35	20	8
福島県	51	38	45	50	14
茨城県	76	57	73	58	24
栃木県	47	66	55	22	16
群馬県	72	64	53	43	19
埼玉県	224	188	155	137	74
千葉県	150	145	113	91	43
東京都	393	399	415	318	163
神奈川県	234	209	215	190	92
新潟県	50	39	61	49	13
富山県	45	29	28	32	6
石川県	29	44	35	21	7
福井県	23	16	20	16	5
山梨県	20	25	20	8	9
長野県	36	28	39	25	24
岐阜県	46	59	46	41	18
静岡県	107	141	87	52	26
愛知県	276	241	200	198	94
三重県	41	44	49	38	21
滋賀県	31	43	43	40	15
京都府	65	78	70	59	27
大阪府	265	268	305	248	118
兵庫県	128	226	175	99	53
奈良県	27	35	32	18	15
和歌山県	43	32	15	15	4
鳥取県	9	10	19	13	1
島根県	20	21	14	13	5
岡山県	29	46	38	26	28
広島県	57	57	71	48	17
山口県	23	28	19	21	9
徳島県	17	20	17	16	7
香川県	14	26	45	18	17
愛媛県	48	20	34	24	9
高知県	15	20	23	10	6
福岡県	119	126	119	114	61
佐賀県	9	17	21	17	6
長崎県	21	26	16	22	10
熊本県	41	38	57	33	15
大分県	20	25	15	35	14
宮崎県	12	21	16	19	8
鹿児島県	25	42	35	22	22
沖縄県	28	26	40	25	12

2021年からの推移を見ると、薬局の開業数は2022年をピークに減少傾向にあります。

ただし、単なる減少ではなく、在宅医療や電子処方箋など新しいニーズへの対応が進む“質的転換期”を迎えていることが特徴です。

開業推移から見える変化 — 減少の背景と新たな潮流

— コロナ禍から地域医療連携・DX時代へ —

2021年からの推移を見ると、薬局の開業数は2022年をピークに減少傾向にあります。

しかし、この動きは単なる減少ではなく、医療・デジタル・生活支援が交わる“質の転換期”を迎えていることを示しています。

開業の背景を読み解くと、次の3つの変化が浮かび上がります。

■ 推移から見える3つの変化

◎ 数の回復よりも「質の変化」へ

開業件数は減少しているものの、内容は明らかに進化しています。

これまでの“店舗拡大”中心の動きから、医療機関との連携強化や在宅支援を軸にした開業へと構造が変化。

薬局は今や、調剤業務に加えて地域住民の健康維持を支援する存在へと役割を拡大しています。

◎ 在宅医療・地域包括ケアを支える新モデル

高齢化の進行を背景に、訪問薬剤管理・居宅療養支援・地域包括ケア連携などを組み込んだ薬局モデルが拡大。

特に地方では、医療アクセスを補完する“かかりつけ＋訪問型”薬局が増え、在宅医療チームの一員として機能しています。

◎ DX化・電子処方箋・オンライン服薬指導の普及

厚生労働省による電子処方箋の運用拡大に加え、2019年の改正薬機法と2022年の省令改正を経て、オンライン服薬指導が本格的に普及しました。

薬剤師が初回からオンラインで服薬指導を行えるようになり、患者との接点は“対面”から“デジタル”へと広がっています。

これにより、薬局の立地価値そのものが見直され、少人数でも効率的に地域医療を支える“スマート薬局”が増加。

一方で、こうした変化が独立型・対面特化型の新規開業を減少させる要因にもなっています。



開業推移から見える変化 — 減少の背景と新たな潮流



「スマート薬局」とは？

近年注目されている「スマート薬局」とは、デジタル技術を活用して業務効率化と患者サービスの両立を図る薬局を指します。

電子処方箋やオンライン服薬指導、薬歴データのクラウド共有などを活用し、薬剤師が調剤作業から解放され、より専門的な服薬支援や健康相談に時間を割ける体制を整えた新しい薬局のかたちです。

また、在宅支援やセルフメディケーション支援、データ連携を通じた地域医療ネットワークの構築など、単なる「スマート＝効率化」ではなく、人とテクノロジーが共存する“次世代のかかりつけ薬局”としての位置づけが強まっています。

■ 減少の背景にあるオンライン化の影響

オンライン服薬指導の拡大は、医師・薬剤師・患者がデジタル上でつながる新たな医療提供体制を形成しました。

都市部ではオンライン対応薬局や、調剤併設型ドラッグストアの開設が増え、従来の小規模独立型薬局との差別化が進んでいます。

これにより、「どこで開くか」よりも「どう機能するか」が重要な時代に移行しています。

薬局経営の新たな視点へ



こうした変化は、薬局を“開業の数”ではなく“地域で果たす役割”で評価する時代の到来を示しています。今後は、データを活用した服薬管理や、AIによる処方支援など、「デジタル×ヒューマン」双方の力を生かす経営戦略が求められます。



薬局の価値は、“どこにあるか”ではなく、“誰と、どうつながり、どんな健康価値を生むか”。

その視点の転換こそが、2025年以降の薬局業界を形づくる重要なキーワードとなるでしょう。

2025年の着地見込みと展望



2025年の着地見込みと展望

— 数の停滞は、進化の始まり —

2025年上半期(1～6月)時点の薬局開業数は1,254件。

下半期も同水準で推移すると見込まれ、年間では約2,500件前後の着地が予測されます。

これは前年(2024年:2,590件)とほぼ同水準であり、開業数の減少傾向に一旦の歯止めがかかった形です。

しかし、これは単なる「停滞」ではありません。

むしろ、薬局業界が“数”から“機能”へと軸を移す転換期を迎えたことを示しています。

■ 国の方針と制度改革がもたらす構造変化

薬局の変化を後押ししているのは、国の政策的な流れです。

厚生労働省が掲げる「医療DX推進本部」では、薬局の業務“対物業務から対人業務へ”と転換する方針を明確化。

服薬フォロー、在宅支援、健康相談など“人と向き合う薬剤師”へのシフトを推進しています。

さらに、「患者のための薬局ビジョン」では、薬局を“地域包括ケアの中心的存在”として位置づけ、医療・介護・行政が連携する仕組みの中で、薬局が生活者に最も近い医療拠点となることを期待しています。

出典:厚生労働省「医療DX推進本部 取組概要」(令和6年)

出典:厚生労働省「患者のための薬局ビジョン」(最新版)

■ デジタル化が加速する“スマート薬局”への転換

電子処方箋やオンライン服薬指導の普及が、薬局業界に大きな構造変化をもたらしています。

厚生労働省によると、2025年夏時点で薬局の電子処方箋運用開始率は約7割に達し、全国的に普及が進行中です。

現在も導入が進んでおり、秋には全国の8割近い薬局で運用が開始されていると報告されています。

※出典:厚生労働省「電子処方箋の運用状況について」2025年8月更新、薬事日報/WICレポート2025年9月

こうした流れの中で登場したのが、“スマート薬局”です。

スマート薬局とは、電子処方箋・オンライン服薬指導・薬歴クラウド共有を組み合わせ、薬剤師が調剤業務から解放されて、より高度な服薬支援・健康相談に専念できる薬局を指します。

単なる効率化ではなく、

- ・在宅支援・セルフメディケーション支援
- ・医療・介護・行政とのデータ連携
- ・地域包括ケアを支える情報ハブ化

といった“人×テクノロジー”の融合が進んでいます。

2025年の着地見込みと展望

■ 開業数減少の裏にある「機能転換」

開業数が減少している背景には、オンライン服薬指導・電子処方箋・調剤併設型ドラッグストアの普及など、**薬局業態そのものの再定義**があります。

都市部ではオンライン対応型や医療モール併設型が拡大し、従来の“立地勝負”から“機能競争”へと移行しています。

また、薬剤師不足や人件費の上昇もあり、「店舗を増やす」より「既存店舗を最適化する」方向へ舵を切る企業が増えています。この“質的転換”こそが、2025年の業界構造を最も象徴するキーワードといえます。

今後の展望:地域と共に進化する薬局へ

2026年以降、薬局は「立地産業」から「連携産業」へと進化していくと予想されます。

① 医療連携力

医師・病院・介護施設とのデータ共有、地域包括ケアネットワークの形成。
電子処方箋データや薬歴を通じた医師連携、在宅患者情報の一元管理などが進む。
キーワード:「医療DX」「情報連携」「地域医療ネットワーク」

② 在宅支援力

高齢者・慢性疾患患者を対象にした訪問薬剤管理や服薬フォローアップの拡大。
訪問医・ケアマネジャー・看護師と連携し、生活支援と服薬管理を両立する体制が鍵に。
キーワード:「かかりつけ薬局」「在宅医療」「地域包括ケア」

③ デジタル対応力

電子処方箋・オンライン服薬指導・クラウド薬歴の活用に加え、
AIによる薬歴分析や服薬アドヒアランス支援など、新たなIT活用が進行。
一部では生成AIによる患者対応の支援実証も始まっている。
キーワード:「スマート薬局」「AIサポート」「医療データ連携」

これらの3軸を兼ね備えた薬局が、次の成長局面をリードしていくでしょう。



薬局は「地域の健康ハブ」へ

—— 医療 × 生活 × コミュニティの結節点に ——

薬局の進化は、もはや医療提供の一部にとどまりません。
いま薬局は、地域の健康・福祉・防災を支える“社会インフラ”としての役割を強めています。

調剤や服薬指導に加えて、健康相談・介護予防・セルフメディケーション支援など、生活全体に寄り添う“健康ハブ”への転換が進行中です。

■ 健康サポート薬局と防災対応薬局の拡大

厚生労働省の「健康サポート薬局」制度は、薬剤師が継続的な健康・介護相談を担う仕組みとして2016年に開始。

2025年春時点で全国約2,900件(全体の約6%)が認定を受け、自治体と連携した健康測定会やフレイル予防活動も広がっています。

また、災害や感染症対応を目的とした「災害医療連携薬局」も全国で約1,200件に増加。
停電時対応や医薬品備蓄体制を備え、“有事にも機能する地域医療拠点”として期待が高まっています。

出典：厚生労働省「薬局機能情報提供制度」2025年春更新／日本薬剤師会 2025年3月

■ 在宅医療・介護との連携強化

高齢化の進行により、全国の約4割の薬局が訪問薬剤管理を実施。
医師・看護師・ケアマネジャーと連携し、服薬支援を中心とした在宅医療チームの一員として機能しています。

電子薬歴データを活用したクラウド連携も進み、薬局が医療・介護・生活支援を結ぶデータハブへと進化しています。

出典：日本薬剤師会「在宅医療における薬局の役割」2025年版

■ 地域コミュニティの再構築へ

薬局の多機能化は、医療費削減だけでなく、地域経済や住民交流にも波及しています。

地元商店街や自治体と協働した健康イベント、災害時支援ネットワークなど、
薬局が“まちの健康ステーション”として地域のレジリエンス(持続力)を高めていることが
見えてきます。

薬局は「医療の担い手」から「生活の支え手」へ。

処方せん調剤
にじいろ薬局

全国薬局 開業ランキング
レポート ver1 まとめ

各種吸入器— 試ししてください

にじいろ薬局

処方せん調剤
受付時間
平日 9:00 - 21:00
土日 9:00 - 18:00
日・夜

にじいろ薬局
入口

処方せん受付

調剤

薬局の進化と未来 — 地域と人をつなぐ新たなステージへ

薬局は、医療の一端を担う存在から、地域の暮らしを支える「健康拠点」へと進化を続けています。

2025年1月～6月の開業データを振り返ると、全国で1,254件の薬局が新たに誕生しました。その背景には、電子処方箋の普及、在宅医療の拡大、そしてDXによる業務変革など、社会構造の変化が色濃く反映されています。

都市部では医療モールや再開発エリアを中心に連携型薬局が増え、地方では訪問支援や地域包括ケアを担う薬局が着実に拡大。

薬局は今、「立地」から「つながり」へと軸足を移す転換点に立っています。

変化のなかにある“希望のサイン”

薬局を取り巻く環境は決して平坦ではありません。
人手不足、物価高、そして業務の多様化——。

それでも、全国には
地域の健康を守るために挑戦を続ける薬局が数多くあります。

オンライン服薬指導や電子処方箋を活用して
時間や距離の制約を超えた支援を実現する薬局。
災害時にも地域住民の命を支える防災対応薬局。

そして、在宅医療・介護現場と手を取り合い、
“人に寄り添う医療”を地域の中で実践する薬局。

そうした取り組みの一つひとつが、
これからの日本の医療・福祉の未来を形づくっています。



データが映す、未来への道標

このレポートを通じて見てきたのは、
「薬局は変化の真っ只中にありながらも、確実に前進している」という事実です。

数ではなく、機能で評価される時代。
地域に根ざし、社会とつながる薬局こそが、次の時代をリードしていくでしょう。

データの裏側には、数字では語りきれない努力と信念があります。
日々の服薬支援、在宅訪問、地域との連携——。

その一つひとつの積み重ねが、地域の「安心」を支える土台となり、
日本の医療を静かに、しかし確かに前へと動かしています。

データは、“今”を記録し、“未来”を描くための羅針盤です。

Reviewは、その挑戦をデータで可視化し、
すべての地域が健康で持続可能な社会を築けるよう、これからも支援を続けてまいります。

すべての「まち」と「ひと」のために。

薬局が描く未来は、健康を届けるだけではありません。
それは、安心とつながりを紡ぐ場所をつくること。

このレポートが、薬局業界の新たな可能性を考えるきっかけとなり、
地域と人をつなぐ新しい医療のかたちへ、一歩を踏み出す原動力となれば幸いです。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当:五味川
E-mail:gomikawa@re-view.co.jp

Re:view